

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

～“やっかいもの”から“ごちそう”へ～ 「房総ジビエ」の魅力発信プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県、君津市及び千葉県夷隅郡大多喜町

3 地域再生計画の区域

千葉県の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

平成27年度に出荷・販売するため処理されたイノシシは231頭であり、捕獲頭数2万2千頭に対して、その利用率は約1%にとどまっている。処理頭数が伸びない要因の一つに、いずれの施設においても解体作業従事者が不足していることがあげられる。従事者は兼業で、要請を受けて解体作業にあたっているため、調整が出来ないことが度々発生している。また、処理加工施設では、保管スペースがないために、イノシシ等の受け入れを断ることもある。常時ジビエ肉を供給できるよう冷凍での保管スペースの確保が必要である。さらに、近年は、安全性の高い野生獣肉供給のため、銃弾の残存について金属探知機による検査の要望が多くなるなど、実需者の要望に対応した体制整備が求められている。

現在、ジビエ料理を提供する飲食店数はまだ少なく、ジビエの魅力を発信する場が少ない。消費者側の課題としては、県産のイノシシ肉、鹿肉を提供している店舗の情報が少ないこと。また、馴染みがない、食べたことがないなど、食材としての魅力が認識されていない状況である。飲食店側の課題としては、衛生管理や調理上の扱い方、購入先が分からない等の理由から取り扱っていないとの意見がある。両者へ積極的に県産ジビエの情報や魅力を継続的に発信することが必要となる。

4-2 地方創生として目指す将来像

千葉県での野生鳥獣による農作物被害額は3億9千2百万円(平成27年度)

であり、そのうちイノシシによるものが2億1千万円と、全体の半分強を占めている。

捕獲されたイノシシ肉を地域の新たな資源として有効に活用するため、県内5カ所に処理加工施設が設置されており、これらの施設を通してイノシシ肉の出荷が行われている。施設では、消費者へ安全で安心な野生獣肉を提供するため、「千葉県イノシシ肉に係る衛生管理ガイドライン」に基づき解体・処理が行われている。また、県が策定した「出荷・検査方針」に基づき放射性物質の全頭検査を行い、安全性が確認されたものを消費者に提供している。

近年、ジビエは注目の食材であり、ジビエ料理を提供する飲食店を求める人も増えつつある。そこで、平成28年度より、県内で捕獲されたイノシシ、鹿肉を「房総ジビエ」と銘打ち活用事業に取り組んでいる。その一環として、飲食店向けに衛生管理や調理上の扱い方の講習会の実施や、参加飲食店がオリジナルのジビエ料理を提供する「房総ジビエフェア」を開催している。

本事業により、県と被害の多い市町が連携して、野生獣肉の供給体制整備と県産ジビエ肉の情報や魅力発信を行うことで、地元飲食店での活用が拡大する。また、企業と連携することで、より効果的なPRが可能となることから、有害獣であったイノシシや鹿を山の幸に代えて、地域活性化につなげることを目指す。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
県内処理加工施設の 販売額 (千円)	9,240	400	800	800
イノシシ肉の処理頭 数の増加 (頭)	231	10	20	20
房総ジビエフェアに 参加したことのある 飲食店数の増加 (店)	42	8	5	5

	KPI増加分の累 計
県内処理加工施設の 販売額 (千円)	2,000

イノシシ肉の処理頭数の増加（頭）	50
房総ジビエフェアに参加したことのあ る飲食店数の増加（店）	18

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

イノシシ等の野生鳥獣による農作物被害を防止し、捕獲されたイノシシ等の肉を新たな地域資源として有効活用するため、その安定供給体制を確立するとともに、ジビエの魅力が飲食店、消費者の両方へ発信し、有害獣であるイノシシや鹿を山の幸に代えて、地域活性化に繋げることを目指す。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

千葉県、君津市及び千葉県夷隅郡大多喜町

② 事業の名称：～“やっかいもの”から“ごちそう”へ～「房総ジビエ」の魅力発信プロジェクト

③ 事業の内容

処理加工施設での処理頭数の増加に向けて、施設の所在する市町やその周辺の市町村と処理加工組合などの関係機関で会議を開催し、問題点の洗い出しや必要な設備・体制を検討する。そして、より効率的な運営に必要な整備を行い、処理頭数の増加につなげていく。

また、処理頭数が伸びない要因として考えられる解体作業従事者の不足を解消するために、技術者育成研修を行う。平成29年度はイノシシの解体作業に慣れ親しむ意味も込めて広く参加者を募り、興味のある人員の掘り出しを行う。平成30年度にはより実践的な経験を積ませるため、処理加工施設での業務に見習いとして従事してもらい、数をこなす事業とする。

処理加工されたジビエ肉が増加することから、積極的な活用や知名度を上げる必要がある。その方法として、メディアを利用したPRや、飲食店向けの講習会、有識者や消費者が参加する料理コンテスト方式のイベントを企画する。また、ジビエ料理を定着させるため、「房総ジビエフェ

ア」を継続して実施する。さらに、野生獣肉の供給体制整備に向けて、平成30年度から県内の2自治体が変わり、処理加工業者に対し、処理頭数の増加に向けた設備等の導入に取り組む。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

平成28年度からの3カ年は、各関係機関の連携のもと行政が主体となり、処理加工体制の改善に取り組む。体制が確立されてからは、処理加工施設が自主的に育成講習を実施して後継者を育成する体制とする。

【官民協働】

本事業に関係する県、市町村、農家・狩猟者、民間事業者・飲食店等の各関係機関が、各々の役割分担に応じて、連携しながら事業を推進することとしている。

【政策間連携】

イノシシ肉の利活用推進のため、鳥獣利用技術の研究開発、衛生的な処理施設に搬入できるネットワークづくり、調理法や加工食品の開発・販売促進などの各分野の取組を総合的に推進する。

【地域間連携】

イノシシ肉の処理加工施設等の関係市町と連携し、処理加工体制の構築や新たな加工品開発等による販路拡大を図ることにより、事業の広域的な効果を高めていく。

【その他の先導性】

特になし

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
県内処理加工施設の 販売額（千円）	9,240	400	800	800

イノシシ肉の処理頭数の増加（頭）	231	10	20	20
房総ジビエフェアに参加したことのある飲食店数の増加（店）	42	8	5	5

	KPI増加分の累計
県内処理加工施設の販売額（千円）	2,000
イノシシ肉の処理頭数の増加（頭）	50
房総ジビエフェアに参加したことのある飲食店数の増加（店）	18

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

K P I の達成状況を確認するために、毎年度指標の集計を行う。

【外部組織の参画者】

（千葉県）

産学金労言で構成する「千葉県地方創生総合戦略推進会議」において、地方創生推進交付金事業にかかるK P I の達成状況などに対する意見聴取及び効果検証を行う。

（君津市）

君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議で効果検証を行う。

（大多喜町）

町の行政評価に準じ、評価シートによる自己評価を行った後、大多喜町総合戦略推進会議により達成度合等の効果検証を行う。

【検証結果の公表の方法】

外部有識者による効果検証後、県及び市・町ホームページ等に掲載する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 20,280千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) イノシシ等有害獣被害防止対策事業

事業概要：イノシシなど有害獣による農作物被害を防止するため、市町村等で構成する「対策協議会」が実施する防護柵の設置や捕獲機材等の整備に助成する。また、集落単位で行う被害対策への支援や地域リーダーを育成するとともに、有害獣対策指導員を配置する。さらに、野生獣肉の利用促進を図るため、体制づくりの検討等を実施する。併せて、野生鳥獣害研究チームによる研究・調査を行う。

実施主体：千葉県

事業期間：平成29年度～平成31年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

KPIの達成状況を確認するために、毎年度指標の集計を行う。

【外部組織の参画者】

産学金労言で構成する「千葉県地方創生総合戦略推進会議」において、地方創生推進交付金事業にかかるK P I の達成状況などに対する意見聴取及び効果検証を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
県内処理加工施設の 販売額(千円)	9,240	400	800	800
イノシシ肉の処理頭 数の増加(頭)	231	10	20	20
房総ジビエフェアに 参加したことがある 飲食店数の増加(店)	42	8	5	5

	KPI増加分の累 計
県内処理加工施設の 販売額(千円)	2,000
イノシシ肉の処理頭 数の増加(頭)	50
房総ジビエフェアに 参加したことがある 飲食店数の増加(店)	18

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

外部有識者による効果検証後、県ホームページ等に掲載する。